

# Argentina

アルヘンティーナ

No. 61



Plaza de Congreso, Buenos Aires (国会議事堂前広場、ブエノスアイレス市：2009/11/12撮影)

社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2012年12月

アルゼンチン日系社会と日系人の現状と活動ぶり ..... 2

タンゴの懸け橋となった偉大な先達・その1 ..... 4

独自性を増すフェルナンデス大統領  
— 亜国政治経済短信 ..... 5

Resumen en castellano ..... 7

協会の活動案内

～ 新年2月17日(日) 2012年度スペイン語講座  
合同研修・懇親会 (Foro Fiesta) ..... 7

～ 協会主催「タンゴ音楽の集い」開催予告 ..... 8

協会の活動報告

～ 8月25日(土) 「Festival Argentino」 in  
日比谷公園 ..... 8

～ 9月16日(日) アルゼンチン・タンゴ  
イン 真鶴 ..... 9

～ 9月22日(土) JRA馬事公苑  
第44回「愛馬の日」 ..... 9

～ 9月29日(土) 日本・アルゼンチン親善交流  
サッカー大会 ..... 10

～ 11月1日(木) 日本・ラテンアメリカ・  
フェスティバル ..... 10

～ 11月4日(日) 第50回アルゼンチン共和国杯  
(東京競馬場) ..... 10

～ 11月8日(木) ウルグアイ外務大臣セミナー  
..... 11

～ 11月16日(金) 第19回「タンゴ音楽の  
集い」 ..... 11



# アルゼンチン日系社会と日系人の現状と活動ぶり

## —第一回 FANA 団体会議より

米須 清文

2011年9月よりFANA（在亜日系団体連合会）会長を務めております米須清文です。

現在のアルゼンチン日系社会人口は30,000名から35,000名です（企業関係者等在住日本人150～170名を除きます）。

初めに、在アルゼンチン日系社会を御理解頂くために、現在活動している日系団体、会、学校等各種組織の現状についてご紹介します。

1. アルゼンチンには、次の三つの連合会があります。
  - 1) 沖縄県人連合会（沖連、創立1951年）加盟市町村人会：30
  - 2) 教育連合会（教連、創立1960年）、全国の日本語学校24校が加盟（含、日亜学院、近郊・地方日本語学校）
  - 3) 在亜日系団体連合会（FANA、創立1993年）沖連、教連を含む38団体（含、地域日本人会、県人会）が加盟。
2. 上記を総合しますと全国に約100の日系団体があり、それらは次の通りFANAと関係している。
  - 1) FANA会員団体：38団体
  - 2) 沖連加盟団体：303市町村人会
  - 3) 教連加盟日本語学校：24校

本年2012年3月25日、日系人・日本人社会の団体や関係機関から50名以上の発表者が集まり、一日を通して各団体の近況報告、活動状況、抱える問題、今後の展望など、様々な立場から発表された。活動が営まれる環境は様々であり、各団体の会員数、拠点（都市や郊外）や施設の所在地域などの多様性から、取り上げられたテーマを一つの結論に纏めることは困難ですが、話し合われた内容を要約すると、つぎの点が挙げられます。

現在の日系社会の現状、活動、課題、展望等を御理解頂ければ幸甚です。

## 第一回 FANA 団体会議

(2012年3月25日)

### ～総括

- 一世から二世、三世、四世への世代交代、また日系・非日系間の婚姻により日本人コミュニティーの構成が大きく変化してきている。かつて日本人移民にとって、コミュニティー内の親睦、子供達への日本語教育、お互いの助け合いの場であった県人会や日本人会は、世代交代と共に、子孫への文化的アイデンティティーの継承と共に、一般社会に向けた日本文化普及の場へと遷移しつつある。一方、ブルサコ日本人会、プロレンシオ・バレーラ日本人会、ラ・プラタ日本人会、沖縄県人連合会等、従来の日本人会、県会のあり方を変えず、引き続き活発に活動を継続している団体もある。
- 主要都市、又は地方都市に施設も持つ多くの団体は、日本語教育や日本文化普及を目的とする“文化センター”へと移行が進んでいるが、この変遷について西部日本人会の代表からは次のコメントがあった。

“80年代に多く見られた出稼ぎにより、会員数が大幅に減少した一方、日系人以外との婚姻が増加し、西部日本人会では社会への門戸を開くか、または団体を解散するかのジレンマに直面した。日系コミュニティーが提供する文化は一般社会にとって非常に魅力的（特に空手、日本語は日系社会の関係機関で学び始める方がよい）であることは我々が活用すべき状況である。西部日本人会の日本語教室には150名の生徒が通い、その内129名が非日系。一方、西部日本語学校に通う23名の生徒の内半分が非日系である。”



11月3日、コルドバ日本人会80周年記念式典



- 我々の母国語日本語教育、日本語学校については、世代が代わるに連れ日本人移民子孫の生徒が大幅に減少している。こういった状況を踏まえ、幾つかの日系機関・団体では新たな取り組みとして、日本人の子孫のアイデンティティーの、次の若い世代への継承に向けて、子供達への文化（エイサー、日本舞踊や各種行事）の紹介や日本語教育（日本語学校）を実施する中、各種行われている日本文化や日本語関係の講座はアルゼンチン社会からも注目を集めている。



11月18日、日亜学院創立95周年記念式典—芸能祭の一場面  
『Nippon Mania』

- 2011年度の教連加盟校における学習者数は1,852名（その内日系725名 [39%]）。2012年度は2,000名以上となる見込み。教連非加盟機関、個人経営アカデミーの学習者数は500～700名。現在の全国日本語学習者合計2,500～2,700名の内、約70%が非日系人であると予想される。
- 本団体会議で挙げた課題については他にも、生徒の日本語学力の著しい低下と、日本語教師として十分に訓練された教師の数が不足している点がある。これは深刻な問題であり、各日本人会・日本語学校で慎重に取り上げる必要があり、教連が実施する日本語教師養成講座に参加する態勢を築くこと、各家庭における意識の向上、更に教師の低報酬の問題、そしてJICA派遣ボランティアの協力を最大限に組み入れる為の学校側の長期的視野での十分な計画を立てていくことなどが必要となっている。
- 卓球や陸上においては、ここ数年日本人社会で実施される大会への参加者が減少してきている。その一方、限られた選手層の中でも、多くの鍛錬と努力を以って、アルゼンチンナショナル大会やパンアメリカン日系人トーナメントにおける好成績での活躍も見られる。最も顕著な例では、ドイツのドルトムントで開催中の世界卓球大会（2012年3月）に、アルゼンチン女子代表で選抜された4名の選手のうち3名は日系人である。

- インターネット、又はソーシャルコミュニケーションネットワークの使用は、若者達の関係作りに大きな変容をもたらしている。昔の世代のやり方で青年部を形成することは、益々困難になっている。この大きな移動性（グローバル化）の時代により、若者達は地理的な境界や団体の枠を飛び越えて、あらゆる活動や親和性によって関係作りを行っており、実際に現代の若者達は、太鼓や音楽、陸上、卓球などの練習の為に、遥々遠方から移動することも厭わない。また、これまでには無かった様なDaleやニセタツアー、琉球祭り太鼓などの、国際的なレベルの交流も行われている。

- 高齢者福祉に関しては、多くの団体で高齢者奉仕の為のグループが組織され、高齢者向けのレクリエーションや講演会、外出などの活動が実施されている。
- 日本人社会の関係強化の視点から、また様々な分野（スポーツ、芸能団体）で活動するグループからは、FANA又は対応機関に対し以下の要望・提案が出された。

- 日本人社会全体の行事カレンダーを調整、作成する
- 留学・研修プログラム、交流プログラムの中にスポーツ活動の枠を組み込む
- 日本語教育のレベル向上、また教師不足解消のため、教師の養成を強化する
- 情報伝達の手段が変化してきたことを考慮に入れ、活動の促進、留学・研修関連情報を周知させる際、対象である若者に最適な方法を考案する
- 各団体の将来を率いる新たなリーダー、指導者の育成を強化する必要性

- 本FANA加盟団体全国会議は、1993年にFANA創立以来初めての開催となったが、今回の会議（FANA加盟団体会議、ラウンドテーブル）参加者の高評・意見を考慮し、定期的開催の検討が求められる。

（こめす せいぶん：FANA（在亜日系団体連合会）  
会長）

FANAの詳細についてはFANAホームページ  
（[www.fana.org.ar](http://www.fana.org.ar)）にアクセスしてください。



# タンゴの架け橋となった偉大な先達・その1

島崎 長次郎

日亜のタンゴの架け橋となった人物、といえば、まず戦後のタンゴの歌い手として一世を風靡した歌い手、藤沢嵐子を上げる人が多いだろう。昭和28(1953)年に夫君のティピカ東京のマエストロ早川真平を中心に、ピアニストの刃根研二、それに藤沢嵐子の3名ではじめてのブエノスアイレスを訪問、時の大統領ペロンの前でその歌を披露して絶賛を博したのはあまりにも有名で、これを皮切りに前後数回にわたり訪亜、絶大な人気を博し、同時に日亜の強固なタンゴの絆を築いたのは周知のとおりだ。

しかし、これよりおよそふた昔ほど遡った戦前の時代に、実はその後の日亜のタンゴの架け橋のキッカケを作った偉大な人々がいたことを忘れてはならない。

◆ その一人がタンゴを中心に、はじめてわが国にラテン音楽全般を紹介し、NHKの「リズム・アワー」やレコード解説などを通じて、その普及に努めたお馴染みの人物<高橋忠雄>だ。氏は昭和11(1936)年の春に日本を出発し、パリを中心

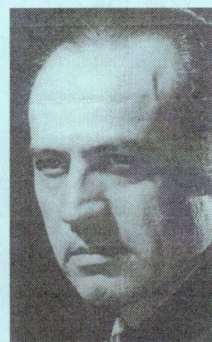
にヨーロッパの音楽事情を学び、その年の暮れにハンブルグを発って25日後に、最後の目



的地ブエノスアイレスに到着し、タンゴの聖地を精力的に歩いてその精髓の探求にいそしんだ。滞在中に逢ったのは、フランシスコ・ロムートやフリオ・デ・カロなどの名流楽団のマエストロたちをはじめ、「ジーラ・ジーラ」の作曲家エンリケ・サントス・ディスセポロや「エル・アディオス」のマルハ・バチェコ・ウエルゴ、人気歌手のロシータ・キロガを筆頭に、リベルタ・ラマルケ、アスセナ・マイサニなど数多にのぼった。そして、帰国後はその交流でえた生の情報を、ラジオ放送やステージでの解説、さらには数々の著書などを通じ、今日に繋がる多くのタンゴ愛好家の育成に寄与された。

◆ その高橋氏の滞在中の昭和12(1937)年、忘れがたい僥倖があった。当時世界で絶賛を博していた“我等のテナー”<藤原義江>が突然ブエノスにやってくるとのニュースが入った。当時ジョシエ・フヒハラ(藤原義江)はRCAビクター

の専属だったため、到着したら公演の合間にタンゴを吹き込むことになるだろう。その際は伴奏にオルケスタ・ティピカ・ビクトルを使う予定、とディレクターも張り切っていたようだ。ところが日本ビクターが本人に持たせた楽譜が「淡き光に=A MEDIA LUZ」はよいとして、後の3曲は「プレガリア」や「ポエマ」「イ・コモ・レバ」



藤原義江



1937年、アルゼンチン録音を行った藤原義江(前列左から2番目)。その右側は共演のオルケスタ・ティピカ・ビクトルを指揮したF.スコルティカッティ。

などヨーロッパ生まれのタンゴが多く、当時のブエノスでは通用しないような曲だったため、北米出身の支配人リンダーマンと高橋氏らで協議のうえ急遽変更することになり、結局3曲は「歌いつつ」「クラベル・デル・アイレ」、そして「心のバンドネオン」に決定し、歌う藤原本人からの要請で、その訳詞を大急ぎで高橋氏が請け負うことになった、とのこと。そうした苦勞の結果出来上がったレコードは、翌昭和13年の夏に次のような番号とタイトルで日本ビクターからリリースされ、わが国のファンの耳に届けられた。

腕利きのバンドネオン奏者フェデリコ・スコルティカッティ指揮のオルケスタ・ティピカ・ビクトルの伴奏よろしきを得て、藤原も適度の緊張感をもって誠実に歌い上げ、リスナーに好感を持って迎えられた。





[レコードNo.]	[曲 目]	[伴 奏]
13538	根なしかずら = CLAVEL DEL AIRE	オルケスタ・ティピカ・ビクトル
	心のバンドネオン = ALMA DE BANDONEON *	
13539	あやつり人形 = A MEDIA LUZ #	
	悩みの歌 = CANTANDO *	

訳詞：\* = 高橋忠雄 # = 若杉雄三郎

(しまざき ちょうじろう:日本タンゴアカデミー会長)

## 独自性を増すフェルナンデス大統領

### — 亜国政治経済短信 —

荒尾 保一

#### 1. 一般政情

フェルナンデス大統領が2期目の大統領に就任して1年が経とうとしている。故キルチネル前大統領が背後でバックアップしていた前期と異なり、自力で政策を進めるほかない状況におかれているフェルナンデス大統領は、側近の一部の有力閣僚を重用しつつ、いよいよ独自色を強めているように思われる。

高いインフレ率と7%を超える失業率、治安の悪化等の中で、国民の不満は高まり、各地でカセロラッソ（抗議の鍋叩き）が発生し、また大規模のデモが行われている。

かつてはキルチネル派の有力支持勢力であった労働総同盟（CGT）のモジャノ書記長との対立が生じ、CGT参加のトラック労組のストライキが行われた。

現在では、フェルナンデス大統領の支持率は、30%台まで低下していると言われる。

フェルナンデス大統領は、大統領任期を2期8年に制限している現行憲法を改正し、3期目を目指しているとの噂がある。他方、ペロン党党人派による新組織La Juan Domingoが結成され、シオリ・ブエノスアイレス州知事を支持する議員が多数参加している。シオリ知事は、憲法が改正されず、フェルナンデス大統領が3期目に出馬しない場合は、自分が2015年の大統領選挙に立候補すると述べた。モジャノCGT書記長はこれを支持する旨発言したが、アニバル・フェルナンデス前首相等キルチネル派議員は、シオリ知事のこの発言は、時期尚早であると批判した。

#### 2. YPF国有化問題

既報のとおり、フェルナンデス大統領は、YPFの国有化の方針をあきらかにしたが、5月、上下両院において、野党の賛成も得て、炭化水素主権法が可決成立した。

これを受けて、フェルナンデス大統領は、YPFの社

長に、同社元社員で、シュルンベルジュ社生産管理部長のミゲル・ガルッチオ氏（44歳）を指名した。

一方、株式を接収されたスペインのレプソール社は、本件につき、世銀の国際投資紛争解決センターに訴えを起こすが、その前に、6か月の猶予を与えてアルゼンチン政府と交渉する用意があると表明した。

6月、YPFの戦略発表会がフェルナンデス大統領、デビド公共事業大臣等の出席のもとに開催され、ガルッチオ社長は、2017年時点で、原油生産量を現在の生産量の36%増の210百万バーレルまで伸ばすと発表した。また、アルゼンチンに賦存の可能性の大きいとされるシェールガスの採掘の技術開発について、外資の導入が必要であると述べた。

7月末、フェルナンデス大統領は、ブラジルで行われたヴェネズエラのメルコスールへの正式加盟を認めた首脳会合の機会に、チャベス同国大統領と会談し、YPFとヴェネズエラのPDVSA社との戦略的同盟構築に向けた共同声明に署名した。また、ロシアのガスプロム社や米国のシェブロン社との協力の動きが具体化しつつある。

他方、フェルナンデス大統領は、YPF、エッソ社等国内の石油精製会社の石油販売価格は、製品が同じ品質である以上、販売価格も同一であるべきであると述べ、石油及びガスの価格設定と輸出に対する国家介入を明文化する政令を発した。これに対し、ガルッチオ社長は、この政令により、同社の生産回復に必要な外資の参入が遠のいたと見ていると不満を表明したと伝えられている。

#### 3. ストライキとデモの発生

##### (1) トラック部門のスト

トラック労組は、30%の賃上げを求めて企業側と交渉を続けてきたが、交渉は決裂し、6月、エネルギー運輸部門がストに入った。これにより、各地の石油精製



所が封鎖され、石油やガスの供給が停止され、ガソリンスタンドに車の長蛇の列ができた。また、ガスの供給が停止されたため、住民の生活に影響が出始めた。

このため、ブラジルに出張していたフェルナンデス大統領は、急遽帰国することとなり、その命令により、国境警備隊が製油所に派遣され、製品の輸送にあたることとなり、製油所を封鎖していた労組員と衝突をする事態が生じた。

モジャノCGT書記長（トラック労組書記長も兼ねている。）は、エネルギー部門のみならず、トラック労組全部門がストに入ることを宣言した。これに対し、ランダッソ内務・運輸大臣は、モジャノ書記長を非合法ストにより公共機関への脅迫を行った罪で告発した。

このストは、交渉の結果、25.5%の賃上げで妥結し、ストは解除された。

## (2) 5月広場デモ

6月、モジャノ書記長主催による所得税の課税最低限の引き上げと家族手当の給付拡大を求めるデモが5月広場で行われた。ブドウ副大統領は、モジャノ書記長は、社会不安を引き起こし、亜国人民を人質に取ろうとしているが、労働者の大多数は政府を支持していると批判した。

## (3) 地下鉄労組のデモ

8月、地下鉄労組の賃上げ交渉が決裂し、ブエノスアイレス市内の地下鉄が10日間のストに入った。これに対し、同市は、和解命令を出したが、ストは続行され、市は、労組が命令に違反したとして、罰金を課した。その後交渉が行われ、23%強の賃上げで妥結した。

本件に関連して、地下鉄の運営を巡って、中央政府とブエノスアイレス市との間で、地下鉄運営権の移譲に関し交渉が行われているが、移譲の条件を巡って交渉は妥結せず、マクリ市長は、地下鉄運営は国の責任であると主張している。

## (4) カセロラッソ（抗議の鍋叩き）の実施

9月、ブエノスアイレス市、ロサリオ市その他の州で、カセロラッソが行われるようになった。ブエノスアイレス市では、5月広場に5万人以上が集まり、3時間以上に亘って、抗議の鍋叩きが行われた。この抗議の争点は、ドルの購入規制、大統領の3選のための憲法改正、政権幹部の汚職などへの抗議であると報じられている。

## (5) 11月の大規模デモ

11月、ブエノスアイレス市の7月9日通りで、高いインフレ、治安の悪化等に抗議する70万人規模のデモが行われた。アルゼンチン経済が欧州通貨危機の影響を受け、大きく減速している中で、高いインフレ率で、国民の生活が脅かされ、大統領選挙時の高い支持率が、今では30%台まで低下していると言われている。

## 4. 保護主義的経済運営と為替規制の強化

アルゼンチン経済が減速する中で、既報のとおり、

アルゼンチン連邦歳入庁(AFIP)は、事前輸入宣誓供述制度(DJAI)を実施し、輸入には同額の輸出を義務付けるという保護主義的な政策を行っている。

これに対し、日本政府は、米国と共同して、この輸入制限は不公正であるとしてWTO協定に基づく協議を亜国に要請した。是正に向けた協議が不調の場合は、WTOに提訴し、第三者のパネルによる紛争解決に持ち込むこととなる。メキシコ、イタリア等多くの国が同様の要請を行っている。

また、アルゼンチン政府は、9月から外貨両替の規制を強化した。外貨収入は、公定レートによりアルゼンチン・ペソに交換しなければならないこととされたが、この公定レートは、少なくとも15%過大評価されていると言われている。

この結果、アルゼンチンには、公定の為替レートのほかに、ブルーレート（闇レートとは言わない）が存在することとなった。

10月末の公定レートは、買値1ドル=4.735ペソ、売値1ドル=4.780ペソであるが、ブルーレートでは1ドル=6.35ペソ~7.00ペソになっていると伝えられている。

## 5. 経済情勢

アルゼンチン経済は、前述のとおり、大きく減速している。2012年第2四半期の実質成長率は、INDEC発表によると、前年同期比0.9%増、前期比0.00%増となっており、年率8~9%の成長を見せていた往時とは、比較にならない状況にある。

これまで成長を支えてきた消費の伸び幅が縮小し、また輸入制限措置により、生産・建設部門は、マイナス成長となっている。工業生産指数は、この数か月前年同期比1~4%のマイナスとなり、好調であった自動車生産もマイナスである。

他方、消費者物価指数は、9~10%の伸びであるとINDECは発表しているが、実際ははるかに高いと言われている。IMF理事会は、INDECの発表するインフレ率及びGDP統計は、実態を反映しておらず、遺憾であると宣言した。ラガルドIMF専務理事は、今後改善が見られなければ、非難決議を出すと言った。フェルナンデス大統領は、国連総会の一般演説において、ラガルド専務理事の発言に対する反論を行っている。

9月、政府は、2013年度の予算案を国会に提出したが、この審査に当たり、ロレンシーノ経済・財政大臣は、来年のアルゼンチンの貿易黒字は133億ドル、プライマリーバランスは593億ペソの黒字、実質成長率は4.4%の伸び、インフレ率は10.8%、平均為替相場は1ドル=5.10ペソとなろうと説明した。その根拠として、ブラジル及び中国の経済回復、大豆の記録的な豊作を挙げた。また、来年は、対外公的債務の返済に充てるための返済基金への繰入額を、今年の約56億ドルから80億ドルに増額するとしている。



## 6. トピックス

フェルナンデス大統領は、エバ・ペロン元大統領夫人の没後60周年に当たり、同夫人の横顔が印刷された100ペソ札（エビータ札）を発行することを決定した。フェルナンデス大統領は、女性が紙幣の顔となるのは、史上初めてのことであり、その大役に相応しい人物として、エバ・ペロン元大統領夫人以上の存在はないと演説した。

以上

付記 この記事は、主として、在アルゼンチン日本大使館のホームページのアルゼンチン政治情勢、経済情勢の記事に依拠しています。記して謝意を表するとともに、同ホームページの閲覧をお勧めします。このホームページは、(社)日本アルゼンチン協会のホームページにリンクしています。

(あらお やすいち：当協会常務理事)



# Resumen en castellano

por Irene Gashu

## Situación actual de los descendientes de japoneses en Argentina (p. 2)

Por Seibun Komesu, Presidente de FANA

En marzo de este año se realizó el Primer Congreso de Instituciones Nikkei organizado por FANA (Federación de Asociaciones Nikkei en Argentina). Residen en Argentina alrededor de 30 a 35 mil nikkei. La composición de las asociaciones nikkei está cambiando. Antes, eran grupos de japoneses y sus descendientes pero ahora son instituciones que se dedican a difundir la cultura japonesa. El 70 % de los estudiantes de japonés no son descendientes de japoneses.

## Puentes del tango. Parte 1 (p. 4)

Por Chojiro Shimazaki

A la pregunta: ¿Quién sirvió de puente entre Argentina y Japón a través del tango? Muchos responderán que fue la cantante Ranko Fujisawa; pero hay otra persona que cumplió este rol antes de la Segunda Guerra Mundial: Tadao Takahashi que introdujo la música latinoamericana en Japón. Takahashi viajó a Bs. As. en 1936. Después de hablar con

varias celebridades del tango, regresó a su país y contribuyó grandemente a la difusión del tango en Japón.

## Primer año del segundo período de la Presidenta Cristina Fernández (p. 5)

Por Yasuichi Arao

Se está por cumplir el primer año del segundo período de la Presidenta Fernández. El proyecto de ley de nacionalización de YPF fue aprobado por el Congreso. Con esta ley, se espera aumentar en un 36% la producción de petróleo y gas hacia 2017. La economía argentina en el segundo trimestre de 2012 creció en un 0,9%. El porcentaje de crecimiento ha disminuido. Según el INDEC, el índice de precios al consumidor subió en un 9 a 10%. Debido al aumento de la inflación y el desempleo, los ciudadanos han manifestado su descontento mediante huelgas y cacerolazos. La popularidad de la Presidenta ha bajado. Se adoptaron medidas para limitar las importaciones y reforzar los controles cambiarios. El nuevo billete de 100 pesos tendrá el rostro de Eva Perón.

# 協会の活動案内

## 1. 新年2月17日(日) 2012年度スペイン語講座 合同研修・懇親会 (Foro Fiesta)

昨年度に引き続き今年度も、好評を得ましたスペイン語受講生、先生、同伴ご家族・友人、アルゼンチン

大使館からの参加ゲスト並びに協会側関係者が参加して、全クラス合同の研修会(Foro)兼懇親会(Fiesta)を開催します。

カルメン先生の絶妙なリードで初心者クラスの人でも楽しく、スムーズに対話が進み、又、先生以外のアルゼンチンのゲストとの会話も体験出来て、教室での授業とは一味違う協会スペイン語講座ならではの研修・懇親会です。



スペイン語に興味のある方、これからスペイン語を習いたい方誰でも、オブザーバーとして参加できますので、当協会事務局にご連絡ください。

開催場所は、新橋の当協会事務所隣の「第2光和ビル、地下1階会議室」で、14:30から開催します。

プログラム・詳細内容が決まりましたら、協会ホームページ等を通じてご案内します。

問合せ先：(社) 日本アルゼンチン協会  
〒105-0004 港区新橋1-17-1  
電話：03-3501-4684  
Fax：03-3595-3932  
E-mail: Nippon@argentina.jp

## 2. 協会主催「タンゴ音楽の集い」開催予告

本年締め第19回「タンゴ音楽の集い」を、11月16日夕、盛況の中納めました。

協会主要行事の一つである「タンゴ音楽の集い」は、来年は3月15日(金)、6月14日(金)、11月15日(金)の3回開催を予定しています。

来年のテーマは、仮称「タンゴ黄金時代シリーズ」と題しておりますが、各回の催しトピックスが決まり次第、ご案内しますので、ご予約置き下さい。

いつも会員の方々、日本タンゴアカデミーの方々、更にはプロのタンゴ演奏家・歌手の方々にご参加頂き、盛況にこの集いが行われましたこと、協会としまして、皆様のサポートに感謝しております。

# 協会の活動報告

## 1. 8月25日(土)

### Festival Argentino in Hibiya Park 日比谷公園アルゼンチン・フェスティバル

主催：在日アルゼンチン大使館  
共催：日本アルゼンチン協会  
協賛：三菱商事  
協力：アルゼンチン観光協会、  
アルゼンチンワイン協会  
後援：日本国外務省 千代田区観光協会

日比谷公園(大噴水前及び野外音楽堂)で開催された「アルゼンチン・フェスティバル」は、好天に恵まれ、残暑まだ厳しい日にも拘らず、予想をはるかに超える大勢の来場者を得て、成功裡に開催することが出来た。

一昨年2010年8月に行った第1回目、アルゼンチン建国200周年記念フェスティバルでの延べ4000人を超える来場者をはるかに超える規模で会場は賑わった。

大噴水周りに並ぶ24個のブースでは、アルゼンチン物産、アルゼンチンワインと焼肉、ラテンアメリカの物産と飲食が披露され、特にアルゼンチン焼肉料理とワインのブースは長い列を作って昼食を求めるといふ人気ぶりであった。



賑わう出店テント

野外音楽堂のステージでは、12:00から18:00まで、タンゴ演奏、プロダンサーによるダンスの披露およびダンス教室によるダンス指導、更にはラテン音楽ミュージシャンの演奏と、盛り沢山の内容で音楽堂の席は終始一杯の人で埋め尽くした。



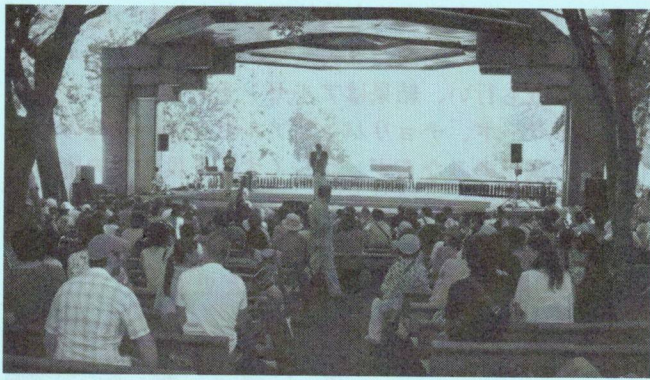
タンゴ音楽観賞ステージ



子供たちのダンス・レッスン

ラウル・デジャン大使夫妻、ルイス・アレギ公使他多数の大使館関係者が来場、大使は音楽堂ステージから来場者に挨拶、この催しの意義を述べられた。





亜国大使のスピーチ

大使館ブースの隣に当協会もブースを設営し、友国会長、木島理事長他多数の役員が出席して、来訪の会員の皆さんや一般のお客さんにワイン等飲み物を提供した。

このイベントが成功裡に実施出来て、アルゼンチン大使館から当協会宛に成功を祝うと共に当協会の支援、協力に対し丁寧な礼状が届いたことは、同慶の至りであった。

## 2. 9月16日(日) アルゼンチン・タンゴイン 真鶴

主催：真鶴町タンゴ実行委員会

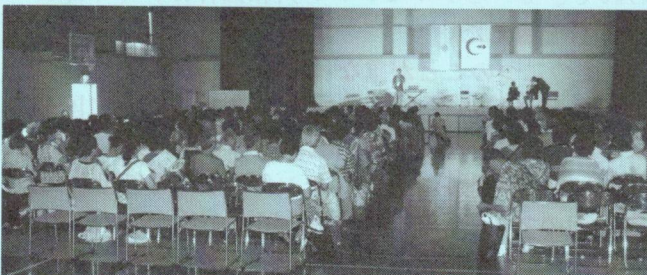
企画・監修：日本アルゼンチン協会、  
日本タンゴ・アカデミー

アルゼンチン・タンゴショー「アルゼンチン・タンゴイン 真鶴」が、9月16日(日) 14:00~16:00 JR東海道線真鶴駅前真鶴町立体育館で開催された。

プロのタンゴ演奏家、歌手、ダンサーによる2時間のタンゴ・ショーは、地方で生のタンゴ・ショーが観賞できるということで、前売りチケットは8月早々に完売。



質の高い文化芸術を地元で接することが出来るとて、この種イベントとしては真鶴町史上初の400人をはるかに超える観客が会場を埋め尽くした。



情熱的、魅惑的な中に郷愁を覚えるタンゴは観客を夢心地に誘い、2時間はあっという間に過ぎ、同町始まって以来の最高の催しであったと、地元紙(湯河原新聞)は報じた。



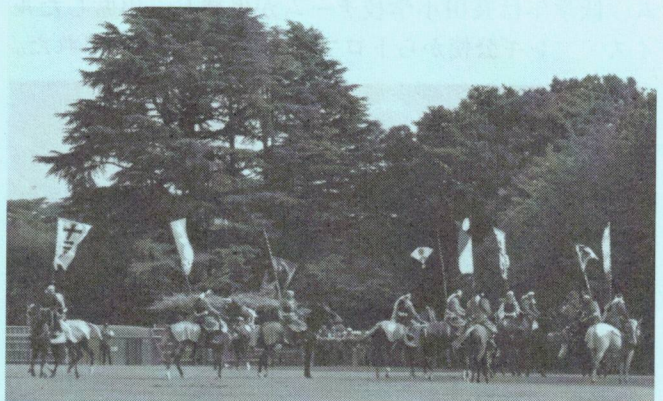
アルゼンチン・タンゴも、港町(ボカ)が発祥の地、その心は「港町の演歌」、「自然も人情も豊か、素朴な真鶴に相応しい」と開演挨拶の中で思いを披露された真鶴タンゴ実行委員会委員長 青木智子女史の指揮で、町スタッフ及び地元ボランティアの尽力を示す結果でもあったと言えよう。

アルゼンチン大使館からルイス・アレギ公使が出席、開演挨拶をされた。

当協会からは、友国会長夫妻、木島理事長他多数の役員が出席し、ショーの終了後、地元主催者、公使、出演歌手・ミュージシャンとの懇親会を行った。

## 3. 9月22日(土、祝日) JRA馬事公苑主催第44回「愛馬の日」

JRA(日本中央競馬会)馬事公苑(苑長:三笠貞弘氏)主催の恒例の「愛馬の日」は、不断なかなか見ることが出来ない伝統馬事芸能の中で、特に今年は、相馬野馬追・チャグチャグ馬コ、母衣引・流騎馬等が披露された。



「伝統芸能—相馬野馬追」から「神旗争奪戦」

アルゼンチン大使館からラウル・デジャン大使ご夫妻が来られ、全ての行事を最後まで大変関心深く観賞



されるとともに、11月4日東京競馬場で開催する「アルゼンチン共和国杯レース」と共に行われる「ジョッキー・ベイビー全国優勝大会」の予選会（同日馬事公苑で開催）での優勝・準優勝者への商品授与をされた。当協会より鶴岡・白鹿両常務理事、寺本理事が参加した。



第4回ジョッキー・ベイビー関東地区予選会—優勝ジョッキーにカップを贈るデジャン大使

アルゼンチン屋台（チョリパン、他アルゼンチン料理）も参加し、1万人を超える来苑者は、愛馬の日をエンジョイした。

## 4. 9月29日（土）

### 日本・アルゼンチン親善交流サッカー大会

一昨年、2010年10月、アルゼンチン建国200周年記念事業の一環として第1回大会を実施した。この大会実施に協力する長田小学校（茨城県境町）の児童・生徒の継続実施への希望は以来強く、今年もアルゼンチン大使館・当協会主催で第2回大会を、三菱養和会巢鴨スポーツセンター・サッカーグラウンドに於いて開催した。

大使館、長田小学校関係者の力添えに、更に今年は、三菱商事（株）、（財）三菱養和会の支援、協力により、整備された施設とグラウンドでの大会が実現した。

小学生チームは、長田小学校チーム、都内アルゼンチンチーム、三菱養和会チームから夫々低・高学年の2チームが参加しリーグ戦を行った。高学年は養和会チーム、低学年は長田小学校チームが優勝し、出席したライス・アレギ公使からトロフィー、賞状が授与された。



アレギ公使から優勝トロフィー授与

また、コスタ書記官他大使館関係者も加わったアルゼンチン・チームと当協会会員も加わった日本チームの成人チーム戦も行い、結果はアルゼンチン・チームが勝利した。アサード、チョリパン等アルゼンチン料理の店もあり、選手のみならず、プレイする子供たちの応援に来られた父兄、他観客席のサポーターの皆さんも、アルゼンチンの人、料理に接する機会となり、大会の趣旨に相応しく、楽しい1日を体験されたと思う次第。



長田小学校チーム、大使館書記官、秘書と共に

## 5. 11月1日（木）

### 日本・ラテンアメリカ・フェスティバル（チャリティ・バザー）

例年恒例の（社）日本・ラテンアメリカ婦人協会主催のチャリティ・バザーが、本年も同じ会場（東京プリンスホテル2階、「鳳凰の間」、「マгноリアホール」）で11:00~15:30に開催された。中南米・カリブ諸国の物産・民芸品のブースが数多く並び、ステージでは、ラテンアメリカの音楽、民族舞踊、歌が披露され、今年も大変な盛況ぶりであった。

収益金は、中南米・カリブ諸国の福祉、友好、親善の諸事業に充てる催しで、今年も当協会として、アルゼンチン大使館宛チケット20枚分相当の協力を行った。

## 6. 11月4日（日）

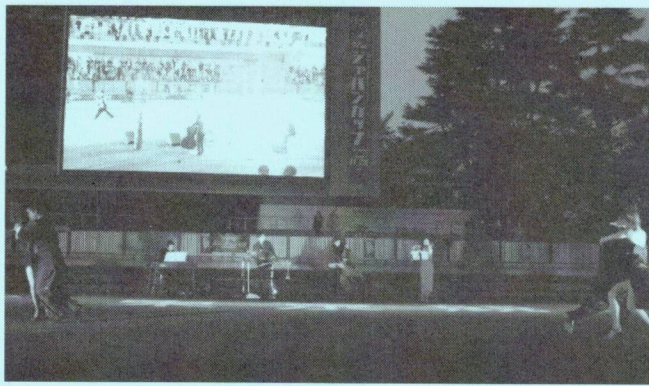
### 第50回アルゼンチン共和国杯（東京競馬場・重賞GⅡ）

日本の近代競馬は、1862年（文久2年）の春、横浜の居留外国人によって行なわれたのが最初とされており、今年、150年目を迎えている。また、1963年より日本とアルゼンチンの友好と親善の一環として行なわれてきているアルゼンチン共和国杯は、今年節目の50回目を迎えた。

以上の二つのことが重なった為、11月4日（日）、東京競馬場で行われた第50回アルゼンチン共和国杯には、100名以上の関係者・招待者が式典に参加した。

第36回の日本・アルゼンチン修好100周年記念大会、第48回のアルゼンチン共和国建国200周年記念大会と比べても、これまで以上に最高に盛り上がった日となった。





パドック場での素晴らしいタンゴ・ショー

アルゼンチン国より、新しい共和国カップを携え、ブエノスアイレス・パレルモ競馬場代表2名が特別参加された。クロアチア・コロンビア・パラグアイより各在日大使も参加された。ラウル・デジャーニ駐日アルゼンチン大使より、「50回という事は、継続は力なりということを証明した。100回記念大会には、是非私をご招待いただきたい」との楽しいスピーチが披露された。

今年は、牡4歳馬の「ルルーシュ」号（横山典弘騎手）が優勝した。

当日の昼休みに行なわれた第4回ジョッキーベイビーズ大会は、長野地区代表の9歳（小学校4年）の小林将太君がみごと勝利。最年少で関東代表の佐藤翔馬君（7歳、小学校2年生）は、「今年は、一生懸命練習してきたので、優勝したい！」と期待を膨らませていたが、残念ながら優勝は逃した。デジャーニ大使は、参加したベイビー・ジョッキー8名全員をVIPルームに招待され、全員に「ポンチョ」をプレゼント。50周年にふさわしい温かみのある微笑ましい場面を演出された。



ポンチョ姿のベイビー・ジョッキーを囲んで

協会からは、木島理事長・鶴岡常務理事夫妻・川上理事夫妻・寺本理事夫妻が参列した。

## 7. 11月8日（木） 在日ウルグアイ大使館主催ウル グアイ外務大臣セミナー開催

来日中のルイス・アルマグロ・レメス ウルグアイ外務大臣のセミナーが11月8日（木）15:30から17:00

まで千代田区内幸町の富国生命ビル28階会議室で開催された。

ウルグアイは、中南米で社会的、政治的に非常に安定しており、信頼性が高い国の一つで、2005年から年平均6%に近い成長を継続している国で、南米大西洋沿岸で唯一の自由貿易港を備えている国として、自由貿易地区の整備、拡大や投資促進制度の充実を図り、外国からの投資を歓迎している。

人口は340万人という小国ではあるが、ブラジル、アルゼンチンという市場に隣接し、メルコスールへの自由なアクセスがある地理的条件下にあり、今後も成長し続ける可能性を熱心にアピールした外務大臣の講演であった。

既に自動車部品の生産工場や物流拠点として日本企業3社が操業しており、もう1社は本年12月中に操業開始を目標に工場建設中。

デジャーニ駐日アルゼンチン大使他南米の各国駐日大使をはじめ日本の各方面からの参加者で、セミナーは盛況であった。メルコスール（南米共同市場）の状況についての参加者の質問に対し、モノ、ヒト、カネの流れを自由化して貿易拡大を図る市場としてのテーマから、現在は政治的テーマの話になっている趣旨の発言もあり、政治・経済環境に格差がある各国間での共同市場問題の難しさを感じた次第。

尚、今回訪日で、日・ウ外相会談を行い、日ウ間で投資協定を結ぶことに合意した。

来春には協定締結をしたいとのアルマグロ大臣の発言があった。

## 8. 11月16日（金） 第19回「タンゴ音楽の集い」

石川浩司元理事から飯塚久夫理事に引き継がれた「タンゴ音楽の集い」は今回で19回目を迎えた。迫力溢れる映像紹介とすばらしい名解説・トークに酔いしれ、アルゼンチン協会会員とその家族・友人、並びにいつもご参加のタンゴ演奏家・愛好家と共に、今回も十二分に楽しみ、タンゴの宵をエンジョイすることができた。

日本タンゴ・アカデミー（会長；島崎長次郎）とのコラボの結実により、参加人数は、60名を超え、盛況な集いであった。

今年の年間テーマは、「アルゼンチン・タンゴ年代記」で今回はその最終回、3回目でした。来年は、新しいテーマ、「タンゴ黄金時代シリーズ」（仮称）でまたお楽しみ頂きたいと思います。次回、第20回の「タンゴ音楽の集い」は、2013年3月15日（金）を予定していますので、多数のご参加をお待ちしています。





## 協会ホームページの活用及び E-メール通信の件

### 1. ホームページ (URL: <http://www.argentina.jp>)

何らパスワードの入力は不要で、誰でも自由にホームページ内情報にアクセス出来ますので、ご活用ください。

### 2. E-mailアドレス

**nippon@argentina.jp**が、協会のE-mailアドレスです。

アルゼンチンに関わる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えする為、今年からE-mailアドレスを連絡頂いている会員の方にはメール通信を始めております。

このメール通信をまだ受信されていない方で、受信をご希望の方は、住所、氏名及びメール・アドレスを当協会メールアドレス宛 (nippon@argentina.jp) 発信、ご連絡下さい。次のメール通信から送信致します。

ご連絡頂きましたメール・アドレスは、当協会の情報伝達関係以外の用途には使用致しません。

ご質問その他お問い合わせある場合は、協会事務所宛お電話ください。

電話：03-3501-4684 担当：阿部

## 住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-3501-4684 FAX: 03-3595-3932

E-mail: nippon@argentina.jp

## 平成24年度 年会費納入のお願い

本年度+(平成24年4月1日～平成25年3月31日迄)の年会費がまだ未納になっている方が一部お見受けします。会費お支払いを済まして頂きますようお願い申し上げます。

個人正会員：1万円

個人賛助会員：5千円

## 編集長よりの御礼

フロント・ページの写真は、ブエノスアイレス在住の小木曾モニカさんから届きましたフォトです。

執筆、原稿につきましては、米須清文様 (FANA (在亜日系団体連合会) 会長)、島崎長次郎様 (日本タンゴアカデミー会長) にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー (Resumen en castellano) は、イレーネ賀集さん (当協会理事) に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

### 日本アルゼンチン協会会報 第61号 2012年12月20日発行

発行人 木島 輝夫 (当協会副会長兼理事長)

編集長 加藤 勝巳 (当協会常務理事)

編集発行 社団法人 日本アルゼンチン協会  
〒105-0004 東京都港区新橋 1-17-1  
電話：03-3501-4684

FAX：03-3595-3932

E-mail：nippon@argentina.jp

URL：http://www.argentina.jp

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート